

日頃から専門的な研究や地域活動等で活躍する学生たち。今回は、コロナ禍においても、大学での学びを活かし、それぞれ異なるフィールドで精力的に活動する学生と団体を紹介します。

特集3 キラリと輝く 島大生の活躍



昨年11月28日に開催したSDHイベントの集合写真。コロナ対策を行ったうえで、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。



／ 様々な分科会に発展！ ／

SiPSはイベントや交流会だけでなく、メンバーの興味に合わせて様々な分科会をつくり、領域横断的に学べる仕組み作りをチャレンジしています。それぞれの分科会が単独で存在するのではなく、必要に応じて手を取り合って連携していくようなプラットフォームを目指しています。私達と一緒に創ってみませんか？



SiPSホームページ



学生と社会人を繋ぐ

島根県内の縁を繋ぎ
地域で創る多職種連携

白鳥博之さん
SiPS代表・医学部医学科6年

人と人を繋ぐことを 多職種連携の第一歩に

多職種連携教育はIPE(※)と呼ばれ、医療従事者の養成に重要とされていますが、現状では学部間や県内の医療系学校間で連携することは難しく、学生がIPEを受ける機会はほとんどありません。そこで、まずはお互いを知り、交流を持つことが多職種連携を学ぶ第一歩であると考え、SiPS(※)を立ち上げました。今では島根県立大学や県外の学生、実務者にも繋がりが広がっています。2020年11月には、対面とオンラインのハイブリッド形式で「健康の社会的決定要因(SDH)」についてワークショップを行いました。学生と社会人が一緒にグループワークを行い、それぞれの立場で、自分の学びと社会課題の結びつきを学ぶことができました。今後は他学部や地域との繋がりをさらに広げ、様々な人の学びや困りごとに関わり合う場を作りたいと考えています。人、地域、そして人の気づきを繋げるSiPSの活動が、地域の課題解決へ向けた第一歩にもなると信じています。

※IPE…Inter-Professional Educationの略。※SiPS…Shimane interprofessional collaborations by studentsの略。



「日本創生のための将来世代応援知事同盟」が開催したサミットの様子。4つのテーマで5つのグループ(暮らし・仕事・学生生活・東京一極集中①②)に分かれてオンラインで行われた。



知事と意見交換!

吉岡彩那さん
教育学部学校教育課程2年

地域ごとの魅力がある！
大学生と知事が意見交換



吉岡さんのプレゼン

／ 地方に住みたい!(地方に住むことの良さ) ／

- 1 人と人のつながりが深い
- 2 地価が安い
- 3 鮮度の良い食材に出会える



◀吉岡さんのプレゼン動画はコチラ

他との対比ではなく 個々の良さを捉える

4月13日(火)に行われた「知事同盟サミットinひろしま」に参加し、18県の知事と大学生による公開ディスカッションで、「暮らし」について発表しました。昨年受けた講義の中で、都会に比べて不便なことが、実はアイディア次第でプラスに転じることに気づきました。これをもとに、「地方には何もない!不便だからこそ「面白い」という軸でプレゼンしました。意見交換で印象に残ったことは、「自分たちには良さが分からなくても、よそから見るととても魅力的なことがあるかもしれない」ということです。自分の住む県について聞かれると「何もない」と言ってしまうがちですが、町の良さを何かと比べることなく、真正面から捉えて良いのだと気づかされました。サミットを通じて、より多くの人に自分の住む地域がどんなに素敵なのかわかってもらいたい、誇りに思ってもらいたいと強く感じました。私は教育学部なので、教育から地域への理解や地域に関する知識を高めるようなアプローチをしていけたらと考えています。



島根大学医学部附属病院のNICU・GCUの壁面を森のエリア、空のエリア、海のエリアに分けてデザイン。医学部で行われた記者発表では曾根さんがデザインについて説明を行った。



ポジティブな
気持ちで！

気持ちはデザインに表れてしまうので、心が少しでも温かく穏やかになるデザインを考えるため、作業しているときや案を考える時は、なるべくポジティブな明るい気持ちで作業に取り組むよう心掛けました。この絵を見た方の不安感を取り除くことができたらいいな、という思いで仕上げました。



建築計画研究室の4名の学生が計画に関わった。それぞれがデザイン案を作成し、最終的に曾根さんのデザインに絞られていった。



「温かい」「空間を設計」
安心できる
曾根彩花さん
総合理工学部 建築デザイン学科 4年



新生児集中治療室 (NICU) の様子

実践的な学びを活かし
病院をリノベーション

夏休みの集中講義「まちづくり演習」の一環で、NICU(新生児集中治療管理室)、GCU(回復治療室)の内部空間・設備の拡充整備を計画していた医学部附属病院でのリノベーションに参加しました。私は、NICU/GCUで治療中の新生児のご家族が来訪された際に、治療室の中を見ることができない窓のデザインと、その周辺の壁面のデザインを担当しました。窓や壁面は、ひとつながりの絵にすることで繋がりを持たせたほか、廊下と診療室をつなぐ窓に、一つずつ違う種類の動物を描くことで、例えば「森のエリアのフラミンゴのところにいるのが○○さんの赤ちゃんですよ」と、ご家族が来訪された際の案内アイコンになるよう工夫をしました。

今までの授業では、自分の設計した案が実現することはありませんでした。今回は壁紙のデザインが採用され、多くの過程に関わることができました。デザインの修正や追加、打ち合わせ、記者会見など、大学の講義だけでは得ることのできない貴重な体験をすることができました。



島根町の海水浴場でのゴミ拾いの様子。ここで拾ったものがアートの一部に。



アート展「Happiness on palette」の会場となった旧野波小学校。現在は廃校になっている。



Linkする城



「しまねLINKメンバー」

地域おこし協力隊の井上さんと島根大学の学生有志4人で構成された団体。大学生活の時間を少し使って、リアルな町おこしを体験したいという学生メンバーを募集中。



イベント当日は、島根町の方をはじめとする多くの方に来場いただきました。「島根町の海の素晴らしさを改めて知ることができた」「知ることを通じて社会問題がジブンゴトになった」など様々な声をいただき、島根町やSDGsに関心を持つてもらえたのではないかと思います。個々の少しの意識で、世界全体が抱える課題を解決することにも繋がっていきます。今後も、しまねLINKでの活動を通じて、多くの人に広くSDGsや島根の魅力を伝えていきたいです。

町の魅力を伝え
SDGsの普及も図る

松江市島根町は、豊かな海があるにもかかわらず、漂着ゴミが流れて来るため、漁業や観光利用の妨げになっています。漂着ゴミを活用したアートを通じて、環境保全の大切さを考えてもらいたいと、3月28日と4月3日の両日、旧野波小学校でイベントを開催しました。テーマは「廃校」×「SDGs」。まずは漂着ゴミの現状を知るために、週に1度島根町へ出向いてゴミ拾いをし、並行して地元の小中学校で海のゴミに関する特別講義をしたり、展示内容の構想について考えたりしました。

イベント当日は、島根町の方をはじめとする多くの方に来場いただきました。「島根町の海の素晴らしさを改めて知ることができた」「知ることを通じて社会問題がジブンゴトになった」など様々な声をいただき、島根町やSDGsに関心を持つてもらえたのではないかと思います。個々の少しの意識で、世界全体が抱える課題を解決することにも繋がっていきます。今後も、しまねLINKでの活動を通じて、多くの人に広くSDGsや島根の魅力を伝えていきたいです。



しまねLINK代表・総合理工学部物質化学科 4年
瀧宮暢斗さん
海洋ゴミのアート展で
環境保全をうったえる

